

准組合員に「農業振興の応援団」になってもらうために

准組合員に「農業振興の応援団」になってもらうためには、誌面を通じて以下の5つのことを強調し、呼び掛けていくことが大切です。

- ① JAをよく知ってもらい、准組合員とは何かを理解してもらう
- ② 地域の農業を理解してもらう
- ③ 農業体験やJA祭りなどのさまざまなイベントに参加してもらう

らう

- ④ 直売所などを通して、地元の農畜産物を購入してもらう
- ⑤ 農業や農家組合員を応援する活動に参加する

准組合員の理解度や参画度合いに合わせて、准組合員に広報していく必要があります。秋号は①～④のパターンを紹介します。

パターン

1 JAをよく知ってもらい、准組合員とは何かを理解してもらう

『JA広報通信』33ページに掲載している、共通コンテンツ「いつでもどこでも、みんなのJA」は自由に転載できます。今年度のタイトルは「変わるJA 広がる地域のきずな」です。8月号、9月号で正組合員と准組合員の違い、准組

合員が担っている役割を解説しています。JA広報誌はもちろん、准組合員や地域住民向けのコミュニティー紙などにご活用ください。

変わるJA 広がる地域のきずな 監修=広島大学 助教 小林元

Q. JAの正組合員と准組合員の違いって何?

A. 正組合員は農業の主人公、准組合員は地域を豊かにする協同の仲間です。

JAの組合員は、農協法の中で、正組合員と准組合員に区分されています。JAの正組合員は、農業を営む人々や農業で働く人々、そして農家の家族の皆さんです。協同の力で豊かな農業を育むと共に、消費者に安全で安心な農畜産物をお届けすることで、わが国の食と農を守り、農業を通じて地域を豊かにする主人公、それがJAの正組合員です。

対して、農業に直接的に関わることがあまりない人々も含めて、だれでもJAの総合事業を利用できるように、准組合員という仕組みがあります。准組合員は、事業を利用するだけではありません。正組合員がつくった農産物を食べる人々でもあり、地域農業を、食を通じて支える大事な仲間です。中には、食べるだけでなく、一緒に農業に関わる准組合員も増えています。

現在の制度では、JAの運営は正組合員が中心となっています。これからは対話を通じて、准組合員の声もJAの運営に反映することが大事になっています。

組合員類型・位置付け

- 正組合員 (農業者)
 - 担い手経営体
 - 中核的担い手
 - 多様な担い手
- 准組合員 (地域住民)
 - 農業や地域経済の発展を共に支えるパートナー

農業振興の主人公

農業振興の応援団

農業者と地域住民の連携で地域農業を振興

地域振興の主人公

耕そう、大地と地域のみらい。

共通コンテンツ 2018年9月号

共通コンテンツ 2018年8月号

変わるJA 広がる地域のきずな 監修=広島大学 助教 小林元

Q. 准組合員はJAでどんな役割を担っているの?

A. 准組合員も、食と農を支える協同組合の仲間です。

JAは農業者を中心とする協同組合です。しかし、地域の農業を豊かにするためには、農業者だけではなく、消費者や地域のみなさんの理解も重要です。食と農をつなぐことで、地域と地域の農業をより豊かにするために、JAには准組合員の仕組みがあります。

また、准組合員になることで、JAが行っている様々な暮らしに関わる事業を利用することができます。Aコープ店舗やガソリンスタンド、高齢者福祉事業など地域の課題を解決するJAの総合事業は、地域に必要不可欠な事業と言えるでしょう。

JAグループでは、准組合員を農業や地域を支える重要な仲間と位置付けています。具体的には、「農業振興の応援団」、さらには正組合員とともに「地域振興の主人公」として位置付けるように提起しています。今後は、准組合員の声を積極的にJA運営に反映する仕組みを用意することも重要です。地域のみなさんで地域を支える仕組みを育みましょう。

買い物

福祉

農業振興の応援団 地域振興の主人公

市民農園

ほかにも
貯金・貸出などの信用事業、生命・建物・車などの共済事業、病院・旅行・ガソリンスタンド…など

耕そう、大地と地域のみらい。